生きものモニター通信 vol.6

世田谷区みどり33推進担当部みどり政策課

2020年2月発行

生きものを呼ぶ「ちょこっと空間」づくり～水鉢を通じて～

2017年度から、水鉢を通じての生きものを呼びこむみどりの工夫を、講習会でお伝えしてきました。
本号は「水鉢」の総集編となりますが、3年間を通して計267名の方にご参加いただきました。
生物多様性というと、少し難しいイメージもありましたが、泉健司講師からは、たとえ小さなスペースでも「ちょこっと空間」をつくることで、生きものが自由に行き交うことが出来、それが生物多様性を「守り」「育む」ことにつながるのだということを学びました。
さて、皆さん、この「ちょこっと空間」づくりを通じてどんなことを感じたのでしょうか？
3年間の報告の中から抜粋してご紹介いたします。

視点が変わりました！！

●散歩をしていても、小さな生きもの、草花にも目が向き楽しみが増えました。（meysayuさん）

●街中を歩いていても、玄関脇などに鉢があるとつい覗いてしまう。（イマツさん）

●水鉢を置くことで家の北側の通路にも風景をつくることができることに気づいた。（Mさん）

写真：フッカさん

会話が広がりました！！

●水鉢の存在をご近所さんにも知られ、近隣友好を展開しています。隣の小学生も興味をもって色々と聞いてきます。母親も話に参加してくれました。（ツキマサさん）

●通り掛かりの人々が覗き込んで下さっていた。5歳の子供も、毎朝メダカが元気良く泳いでいるのを報告してくれます。（あいかママさん）

●これから柿の実が色づくと、声をかけてくださる方がいるので、水鉢の宣伝もしたいと思います。（ほけきょさん）

癒されています！！

＜水鉢編＞

●狭い庭でも水場があることで、どんなに暑くても水鉢を見ることで、清涼感を味わえた。（udonkoさん）

●毎日水鉢を眺めてつかの間の幸福の時を味わっています。（花音さん）

●帰宅した時に、スズメが飛び立ったので、「あっ、お水を飲みに来たのかな？」と自然に目が行くのは楽しいものでした。（エリざべすさん）

＜育てる楽しみを実感しました＞

●感動したことは、頂いたメダカにオレンジと黒のブチがいたのですが、ソックリの子が生まれたことです。あと我が家にとってはビックニュースですが、第三世代も生まれています。（ryukopineさん）

●生きものを育てることは難しい。（モーツアルトさん）

●ナガバオモダカに花が咲いたときは、きれいで、嬉しかった。（メダカ100さん）

他にもビオトープ空間を意識して作るようになりました！！

●庭に来る鳥などにも気を遣うようになり、実のなる木を植えてみました。（シナモンさん）

●草花を選ぶとき、生きものが好むか、呼ぶために、どういう環境がいいか考えるようになった。（ふくらすずめさん）

●水、花、植物を玄関、ベランダ、屋上に置くようになりました。（ゆなっぴさん）

生活が豊かになりました！！

●子どもの頃、普通に見ていた生きものを見なくなったと感じていました。それは環境が変わり、生きものが住めなくなっているのだと。しかし意識して場所を作ってあげれば集まってくる。それを目にすることで生活にも潤いを感じています。最近、ガーデニングも苦にならなくなり、花のある生活ができています。（ゆなっぴさん）

生きものが
住みやすい街は、
人にも潤いを
もたらしますね。

生きものモニター報告 vol.6

2019年度モニターの皆さんからのご報告

11/30までの報告

暑い夏を乗り越え、秋までの水鉢の様子や生きものを呼ぶ「ちょこっと空間」づくりに取り組んできた感想が寄せられました。水鉢の最後の報告です。皆さん、様々な工夫されているようですね。こちらでは年度別にモニターの皆さんの声を掲載しています！

1年目の挑戦

MONITOR Hibiscusさん

今年は非常に猛暑でしたが、水鉢の水を替えたり観察があったからこそ、メダカと共に乗り越え、秋を迎えています。初めて水鉢が家に備わり、水面下で育つ植物を探し求めたりと楽しませていただきました。メダカの子どもは孵りませんでした。ホテイアオイは外来種で嫌でしたので入れていなかったのですが10月に入りとうとう入手したところ、やはり必要だと思いました。しかしやはり1匹も発見出来ず。残念。

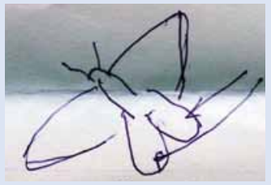
MONITOR げーしーさん

最近涼しくなってきたので、夏の間は暑さ避けのために木陰に置いていた水鉢を日当たりの良い場所に移しました。気がついたらいつのまにかメダカが1匹になっていました。日光が当たらないため藻が減って水が澄んでいますので、そのためメダカの食べ物も不足しているのかもしれません。小さな巻き貝は10匹以上に増えていました。カラスかヒヨドリかムクドリか？に蕾を引き抜かれたヒメスイレンはその後まだ花が咲きません。水場を作ると来てほしくない生きものまでも呼び寄せてしまうのが悩みです。毎日水を飲みに来る3羽のキジバト家族が今日は2羽しかいないなと思いながら日課にしている水盤の水を入れ替えていたら、メダカの水鉢の近くにキジバトらしい羽が散乱していました。カラスかネコに襲われたのではと思います。カラスと放し飼いのネコを庭に近づけない効果的な方法があるといいのですが。

MONITOR せたがやひろひろさん

10月に入り涼しくなってきたので、メダカを10匹購入し、気を配りながら育てたものの、まだ1週間も経たないうちに全部死んでしまいました（涙）11月になって心機一転、自宅近くのペットショップで“ミユキメダカ”という種類のメダカ（銀色です！）を2匹買い、室内にスイレン鉢を置いて育てています。最初は2匹とも元気でしたが、先日1匹死んでしまいました。タニシは相変わらず、元気です。室内なので、ビオトープとは少し違った方向になってしまいましたが、毎日、「元気かな～？」とメダカを眺めたり、エサをあげたりするのが、癒しになっています！

MONITOR ペパーミントさん



大雨で何度か水があふれ、メダカは確認できていません。10月の日中に下の羽がピンクの見慣れないチョウがゆるやかに飛来しました。アサギマダラやギフチョウですか？街中にやってくるかしら？？

下の翅にピンクの模様のある緩やかに飛ぶチョウというと、おそらくはアカボシゴマダラではないかと思います。アカボシゴマダラは日本では奄美諸島でのみ生息していましたが、人の手によって放たれてしまいました。関東を中心に分布をひろげていることから、環境省は２０１８年１月に特定外来生物に指定しました。幼虫の食べる草木が在来種と競合するため生態系への影響が懸念されています。

MONITOR ヨッさん

樹木が茂っている一角に設置して5ヶ月、小鳥や昆虫が飛び交う中に置きましたら、メダカは雨で流されたか、小鳥に食べられたか不明ですが、いなくなりました。現在は16年前から飼っている宇宙で産卵したメダカ（宇宙メダカ）を泳がせています。

MONITOR 大泉さん

今年は当マンションの南側の住宅が取り壊され、庭木も撤去。現在は住宅建築中です。また南東側の農地（最近は耕作放棄）のイチョウの大木やカキの木が伐採されて、住宅5戸が建築されました。その上、当マンションの北側の家では大きなキンモクセイとカエデを伐採しました。今年は環境の激変で毎年ブルーベリーを啄ばみに来ていた小鳥も姿を見せません。トンボも来なくなりました。4、5年は来なくなるのかもしれません。メダカだけ元気に泳いでいます。

MONITOR Takuさん

暑い夏も終わり、水の濁りも少なくなってきました。生き残ったメダカ2匹は、寒くなったせいかほとんど潜ったままで、なかなか姿を見ることができません。これまでの成果としては、ヤゴが2匹元気に巣立っていきました。今は、週に2、3回水を足す程度で他に何もしていません。藻が水鉢の周辺にはびこり、見た目は綺麗ではありませんが、環境は安定しているように感じます。このまま静かに見守り、またトンボが巣立ち、ヒメスイレンが咲く「いきものちょこっと空間」ができればいいなと思っています。

MONITOR Kinさん

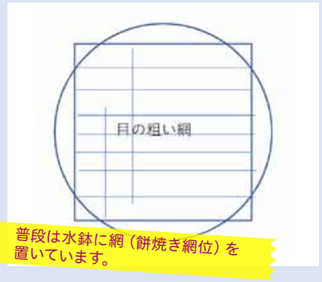
玄関先に置いていますので、1日数回、鉢の横を通るときに覗いています。1匹になってしまったメダカの生活環境は夏と変わらず、ほったらかしになっています。台風の時には、雨水であふれ出ないように、軒のある場所へ水鉢を移動しました。さて、あまり1匹では可哀そうかもしれないと思い、11月13日に上町のお店で「ヒメダカ」5匹250円を購入しました。少し小さいサイズです。これを袋ごと、水温を慣らした後、水鉢に放しました。翌朝観察すると・・・1匹しか姿が見えません。藻の中にいるのかと思い、少し動かしてみました。（メダカをたくさん飼っている友人に聞くと、おそらくネコではないかという答えがありました。）午後3時過ぎ、水温が少し上がった時に、再度覗いてみたら、2匹目を目視できました。11月15日午前8時、相変わらず1匹のみ。急に寒くなってきたので、時々メダカの餌を入れると、パクパク食べています。冬になってきたらまたどうなるのか、観察していきますね。

MONITOR なでしこさん

8月31日ついに最後の1匹が死んでしまいました。立派なセットを頂きましたのに上手に育てられず申し訳ありません。今までご指導ありがとうございました。

MONITOR ぷんちんさん

秋になり日照時間が減り気温が下がったせいか、スイレンの勢いがなくなり葉の数が1枚に減ってしまいました。ヒメダカは小さいのが8匹ほど水面を元気に泳いでいます。タニシは何度かの大雨で死んでしまいました。買ってきたイシマキガイを3匹足しました。藻が大発生し、時々手ですくい取っていますが、お水自体は透明できれいな状態を保っています。



MONITOR カワセミさん

ベランダの置き場所が秋～冬にかけては陽の当らない所で、ホテイアオイも腐ってしまいました。水草も短時間でもよいので、日光が必要なのだろうと感じた次第です。探していたものがホームセンターにあるのが分かり、1週間程前にヒメダカ、マツモ、藻を食べてくれるというイシマキガイ、カバクチカノコガイなど買い足したので、条件の悪い環境下でどれ位生きものが越冬してくれるのか見守りたいと思います。

MONITOR 八十翁さん

道路の面した家の駐車場に置いたところ、猛暑の為かメダカが半月で死滅。新たに5匹追加してハイビスカスの鉢植えで日陰を作りました。道行く人たちが時々のぞいてメダカの姿を確認してるところを見ると、ささやかな憩いのスポットになっているようです。

フラワーランドの現在の水鉢の様子をレポートします！

季節を経て、水鉢は、水草も地上部を枯らし冬の佇まいとなりました。メダカも水底でじっとしています。水も澄み、水中のプランクトンも冬眠しているのでしょう。来園者の方も、覗いては見るのですが、何もいないのかと立ち去ります。現在、熱帯スイレン、ホテイアオイなど寒さに弱い水草の入った水鉢は温室内に移動しています。見栄えを考えると枯れた水草は、整理するとよいのですが、水底で冬眠しているメダカ等を脅かしてしまうかもしれません。現在は、乾燥のため減ってくる水を足すぐらいです。暖かくなったら、また水草も生き生きとし、沢山の生きものたちの憩いの場となり、来園の皆さんの目を楽しませることでしょう。

温室内の水鉢

今後も水鉢の管理方法のお悩みにお答えします。
ご質問などは瀬田農業公園（フラワーランド）園芸相談をご利用ください。
毎日（年末年始を除く）午前10:00～午後4:00　世田谷区瀬田5-30-1
TEL 03-3707-7881（電話相談も可能です）
※都合により園芸相談員が不在の場合があります。来訪の場合は、電話にて事前にご確認ください。

生きものモニター報告 vol.6

2018年度モニターの皆さんからのご報告

11/30までの報告

2年目の挑戦

MONITOR ツッキーさん

我が家と近隣の気になる存在となってきているスモールガーデンの水鉢のホテイアオイが初めて花が咲きました。薄紫の花びらの可憐なこと！「素晴らしいなぁ」と嬉しく眺めました。

MONITOR シナモンさん

最近寒くなってきたからかヒメスイレンの葉があたかも溶けたように数が少なくなってきました。トンボが来ることはありませんでしたが、近くにある柑橘系の木にたくさんのアゲハの幼虫が生まれ、大きくなっていきました。しかしスズメが水浴びに来ていて、「良かったぁ。」と思った翌日、幼虫がすべていなくなっていたのにビックリ！ 鳥と虫は一緒には無理なのでしょうか？早朝にヒキガエルがいたので、庭に住みついてくれたようです。シュロガヤツリの根が広がり、スイレン鉢が小さくなってきたので、鉢を探してもう1つ増やそうと思います。場所を分けておけば、鳥と虫で離して観察出来るかもしれません。馬事公苑のみどりがなくなったからか、今年の夏は暑すぎたからなのか、虫が少なくなったように思います。各家庭が少しでも緑を植えることにより、虫や鳥などが増えることを願っています。

MONITOR 世田谷区育ちさん

8月から9月にかけて10日ほど留守にして帰って見るとスイレンに2つも花が！これで今年は3つも咲きました。やはり日当たりが大事ですね。

MONITOR エリざべすさん

スイレンが昨冬中シーンとしていたので「もう復活してくれないのかな？」と思っていたら、今夏、葉を次々と出してくれ、とても嬉しかったです。秋も小さな葉を出しているので来年も楽しみです。夏の汚れを取るため、一度砂利を取り出して転がしているところです。夏の終わり、メダカの稚魚がいっせいに消えたので、ヤゴがいたのだと思いました。トンボ、カマキリ、チョウ、留守中スズメはチラホラ現れました。これからもビオトープを続けたいと思っています！いい機会をありがとうございました。

MONITOR 苔子さん

通信に、自分と同じように、メダカに蚊を餌とした方を発見し、嬉しくなりました。スイレン鉢とは別に、バケツにクウシンサイと水を入れました。「オナガウジの幼虫が増えればなぁ。」と今から楽しみです。オナガウジは汚水が好きなので、ビオトープ汚水バージョンという感じです。

※オナガウジとはハナアブの幼虫です。

MONITOR 金魚ねぶたさん

9～10月の度重なる台風で、水鉢に造ってあった浅瀬が崩れて水深に変化のない中途半端な深さの水たまりとなってしまいました。秋冬は水が冷たくてちょっと手直しする気になれないので春になり水が温んだら環境を整えようと思います。夏に生まれた子メダカはまだ小さく、室内の水盤で冬越しさせます。

MONITOR 老松さん

昨年は7月下旬にヒメスイレンの白と黄色の花が咲きましたが、今年は新しい茎と葉は伸びたものの、残念ながら花を付けませんでした。代わりに、ホテイアオイの薄紫色の花が咲きました。ホテイアオイの繁殖力に負け、光と栄養分が不足していたのでしょうか。来年に期待しています。

生きものモニター報告 vol.6

2017年度モニターの皆さんからのご報告

11/30までの報告

3年目の挑戦

MONITOR Mさん

「ちょこっと生きもの空間」で、水鉢を教えていただき、家に設えてから3年が経ちました。冬の季節、植物の活動もゆっくりとなっていくようです。日向ではない場所においてあり、たくさんの生きものが来る…というわけではないのですが、水生植物や水鉢の周りなど確実に植栽が豊かになりました。今年はメダカが何度も消えて、ヤゴ？鳥？と期待を寄せたのですが、水鉢周りに動物の糞を発見！調べたところ訪問していたのはハクビシンだったようです。追加のメダカを買いに行ったり、糞をネットで調べたり、夫と色々話したのもよい時間でした。参加した「ちょこっと空間」の講習会後に「三田用水第二分水会」を見学させていただきました。それがとても印象的で、三田用水さんのように家の周りにみどりが広がればいいなと思います。「水鉢がそこにあること」で、日頃見落としがちな、虫や、チョウ、カナヘビといったたくさんの小さな生きものの生活がすぐ傍にあることを実感させられます。次に機会があれば、チョウの好きな植物で寄せ植えやハンギングバスケットを設えてみたいです。

※三田用水第二分水会とは、（一財）世田谷トラストまちづくりの「3軒からはじまるガーデニング」グループのお庭です。

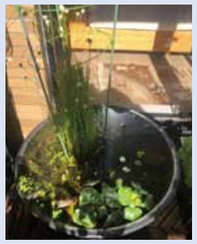
2つの鉢を1階とベランダに置いています。

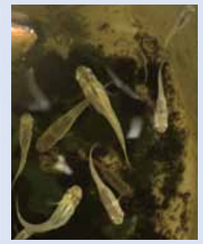
MONITOR フッカさん

水鉢を始めて3年目になります。毎年、春先になると今年こそはと、置く場所を変えたり、植物で日陰を作ったり、大きな水鉢に移し変えたり、意気込んで挑戦するのですが、思ったような成果が出せず今に至っています。前回の報告を出してからあまり変化がないまま今回の報告の締め切りが来てしまい、あわてて書いている状況です。日に日に寒さが増し水草など少し元気がなくなってきています。今までは冬はお休みと勝手に決め付け、何もしていませんでしたが、生きものモニター通信での泉先生のコメントを見て、水鉢の環境を冬仕様に替え、冬鳥の来訪を楽しみにしたいと思います。

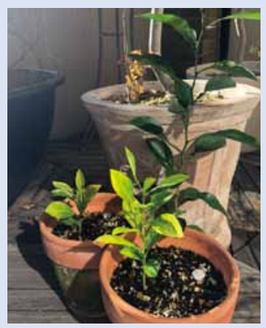
MONITOR 敏造さん

生きものモニター通信で、みどり政策課さんのスイレンが咲いたと知りました。我家のスイレンは全く咲きません。寒くなってきたので日向に移動した水鉢と、今年生まれたメダカです。今年もたくさん生まれました。チョウを呼ぶために、ナツミカンの種をまいてみました。今年、チョウが遊びに来てはくれましたが、卵は産んでくれませんでした。来年を楽しみにしています。





ナツミカンの芽が出てきました！



MONITOR 岡さん

11月初めに「東京海洋大学」品川区の文化祭に行きました。そこで「オオミジンコ」を入手しました。北米から来た小さな甲殻類でミジンコの中では、とても大きな種類だそうです。（クロレラ錠剤を食べます。）来春になったら、水鉢のメダカの餌にと思っています。

MONITOR おじさん

今年で3回目の冬を迎える水鉢。夏の間、あんなに元気に動き回っていたメダカも今ではじっとしていることが多くなりました。日々の点呼も難しく、姿をみると無事な様子に嬉しくなります。先日、水鉢を大掃除しました。写真はその時のものです。メダカは2匹に減っていました。これから先、春までは水足しだけになりますが、スイレンの葉が増え始めるまで元気でいて欲しいと思います。3年間ベランダの定位置に水鉢があるためか（重くて動かせない）、今年は水鉢の上部のベランダの天井部分にクモの巣が張られていることが多く、可哀想でしたが、その度に取り除きました。クモは呼びたくないです。今年はスイレンの蕾までを見ることができたので、来年は咲いてくれるかな。

MONITOR ryukopineさん

今年の夏は大雨で何回も水鉢の中の水の量を調整しました。現在、なかなか姿を現さないので、全部で何匹いるのかは、わかりません。少なくとも、3匹はいるようです。10月11日の昼間、裏庭にハクビシンが現れました。タヌキを細身にした感じでした。庭には柑橘系の木もあります。それも関係しているのでしょうか？

ハクビシンは雑食で、中でも甘い果物は大好きなので、それを狙ってきたのかもしれません。

生きものを呼ぶちょこっと空間 NEWS LETTER

生きものモニター報告 vol.6

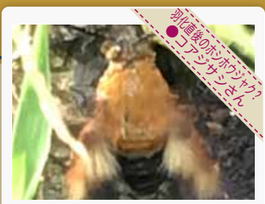
生きもの報告総集編 2017年度〜2019年度

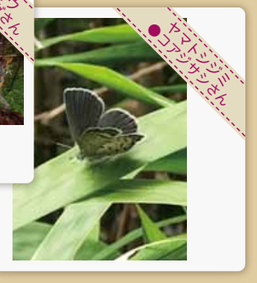
水鉢を置いたことでたくさんの生きものが庭や鉢の周辺で観察できたようです。最も多かったのがチョウの報告です。「レモンの木にアゲハの幼虫がいるため、鳥は来ないよう、水浴び場はつくりませんでした。(みどりきみどりさん)」他、工夫次第で呼びたい生きものを選べるという、講習会で学んだ知識を活かした声も寄せられました。

昆虫編

ジャコウアゲハ　クロアゲハ　オオミズアオ　ナミアゲハ
ナガサキアゲハ　ヤマトシジミ　モンシロチョウ　キチョウ
モンキチョウ　ツマグロヒョウモン　ルリタテハ
イチモンジセセリ　ホシホウジャク　ヨトウムシ※　など

※ヨトウガ・シロイチモジヨトウ・ハスモンヨトウの幼虫のこと





Vol.5 でアゲハがサナギになるまでをレポートしてくれた岡さんが素敵なメッセージを寄せてくださいました!!

我が家の幼虫は8月は12匹、9月23匹、10月4匹、11月10日時点で3匹、計42匹育ち、サナギになった。注目したのは10月の台風、11月の寒さだ。それに負けなかった生命力はすごいと感じる。ただ黙々と葉を食べ生長し、サナギになり、寒さに耐え、春の花が咲く頃、美しく青空を飛び回り、我々を楽しませてくれる。それが自然界だ。「ちょこっと生きもの空間」大切に。

INSECTS チョウ
卵・幼虫・成虫

INSECTS カマキリ
成虫

魚を捌き、内臓やウロコを袋に入れ、外に置いていたところ、それにくる小さな虫を狙ってカマキリがやってきました。目が合うとササット隠れます。しばらく経つと様子見か覗いています。この日は11時頃から日が沈む5時半頃まで袋の上で粘っていました。その根気強さに脱帽です。●世田谷育ちさん

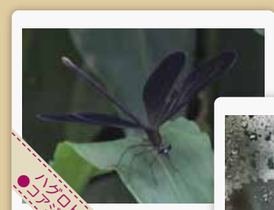
カマキリは、自然界では虫を中心に食べますが、肉や魚を食べることもあります。

オオカマキリ　コカマキリ　ハラビロカマキリ　など

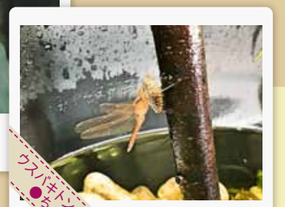
INSECTS トンボ
幼虫・成虫
※幼虫＝ヤゴ

報告の中で「呼び寄せたい」という声が最も多かったのがトンボです。

まさか私達の庭でトンボが産卵してくれるなんて、夢のようです。アドバイス通り、水草を少なめにし、水面を広くしてよかったです。●苔子さん



トンボに来てほしいのでシュロガヤツリを入れました。●シナモンさん



朝ふと見るとヤゴが脱皮してトンボになっていました。マンションのベランダですがビオトープを作って本当に良かったと思った瞬間です。●ちーくん

シオカラトンボ　ムギワラトンボ※　オニヤンマ
ハグロトンボ　イトトンボ　アオイトトンボ
ウスバキトンボ　など　※シオカラトンボの雌

アオムシコバチ(幼虫)　アシナガバチ
スズメバチ　ニホンミツバチ
キンケハラナガツチバチ　など

水鉢の近くに羽根のない大きなハチ（2cm程）が地面を這い、小さな花の蜜を吸っていました。このハチは何でしょうか？なぜ羽根がないのでしょうか？●ぶんちんさん

キンケハラナガツチバチのメスですね。交尾後のメスは土の中にいるコガネムシの幼虫を糞の臭いから探し当て、毒針で麻酔して産卵します。交尾後に女王が翅を自力でちぎるのは、アリの仲間では良く知られていますがハチの仲間では知られていないようで、とても貴重な写真だと思います。

INSECTS ハチ
幼虫・成虫

INSECTS バッタ
幼虫・成虫

ヒメスイレンはバッタの好物のようで食べられてしまいましたが、新たに新芽が出てきました。ちなみに赤ちゃんだったバッタは、大きく成長しています。●カメさん

バッタがホテイアオイの上によくとまっていました。●ピピメダカっちさん

ショウリョウバッタ
トノサマバッタ　オンブバッタ
など

INSECTS カマキリ
成虫

魚を捌き、内臓やウロコを袋に入れ、外に置いていたところ、それにくる小さな虫を狙ってカマキリがやってきました。目が合うとササット隠れます。しばらく経つと様子見か覗いています。この日は11時頃から日が沈む5時半頃まで袋の上で粘っていました。その根気強さに脱帽です。●世田谷育ちさん

カマキリは、自然界では虫を中心に食べますが、肉や魚を食べることもあります。

オオカマキリ　コカマキリ　ハラビロカマキリ　など

アオカナブン　エンマコオロギ
オオヨコバイ(幼虫)　カメムシ
コガネムシ　ナナホシテントウ
ナミテントウ　セミ
ハエ　ハナアブ
ヒラタアブ　など

INSECTS その他

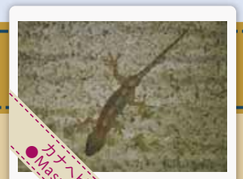
ベランダの水鉢の淵に、黄色に光る虫の赤ちゃんが来てくれました。初めての来客で、家族みんなで喜びました。●水と緑のママさん

爬虫類編

水鉢を庭の半日陰の場所に置き、炭や牡蠣の殻もいれてみました。5日ほど経った頃ドジョウ位のヘビが鉢の中にいてびっくり！食べられたかと思いましたが、メダカが元気に泳いでいて安心しました。●きいみさん

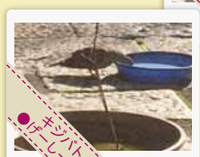
鉢の近くをカナヘビが歩いていた。●ピピメダカっちさん

カナヘビ　トカゲ
ニホンヤモリ　ヘビ　など



鳥編

水浴びは埃や寄生虫、脂粉を落とす目的も！

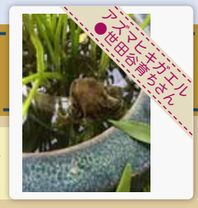


スズメ　キジバト　ヤマバト
カラス　ウグイス　オナガ
シジュウカラ　ヒヨドリ
ムクドリ　メジロ　など

スズメが水浴びをしていると、一回り身体が小さいメジロも来て仲良く一緒に浴びていました。その直後にヒヨドリが水浴びに！！続いてキジバトが水を飲みに来ました。キジバトは真夏以外には水浴びをしないようですが、晴れた日には翼を広げたり仰向けになったりと結構無防備な姿勢で全身の虫干しをしています。●げーしーさん

両生類編

連日の猛暑の中カエルも暑いのでしょうか。毎日火鉢のプールで水に浸かっていました。●世田谷育ちさん

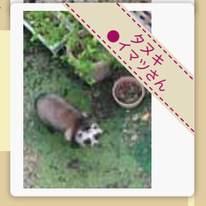


アズマヒキガエル　ウシガエル　ヒキガエル　など

その他

ネコ　タヌキ　ハクビシン
アダンソンハエトリグモ　ダンゴムシ　など

ビックリしたのは10月末タヌキが庭に現れた事です、つがいで行動すると聞いていましたが一匹でした。最近増えているのでしょうか？●イマツさん



少し身体が小さいように見えるので、独り立ちしたばかりのタヌキなのかもしれませんね。近年、タヌキは街中での生活に適応して、生息数が増えているそうです。世田谷区は国分寺崖線があり恵まれた自然環境から、目撃情報も多い地域です。ハクビシンはもちろん、最近では、アライグマの目撃も報告されています。

メダカ5匹が2匹に減ったので、ネコが食べたのではないかと思った。ネットをかけたらネコが来ないようになった。●みっちゃん

泉講師からのコメント

2017年から始まった「生きものを呼ぶちょこっと空間づくり」ですが、ほんの小さな空間を提供するだけでも、身近に暮らす生きものたちの息づかいや季節の移ろいを、これまでより敏感に感じることができるようになったのではないでしょうか？
専門的にはこのような小さな住みかをマイクロニッチと呼んでいます。今はまだ一人一人が出来ることはささやかでも、その愛情にあふれた小さなスポットを焦らず諦めずにみんなで幾つも増やしていくこと、そして街中にそれらを繋ぐ街路樹や公園の緑を育んでいくことで、次第に都市全体が豊かな自然に抱かれたエコシティーへと成長していくのです。
皆さんが作られたスイレン鉢だけでなく、プランターに生えてきた見知らぬ雑草やそこに来る虫たちの暮らし、初めて聞く野鳥の声、糞から芽生えた野山の植物たちのしたたかさにも目を向けてみると、自然というものはいつでも私たちの身の周りに戻ってこようとしているのが判るようになってきます。
ベランダに飾るたった1鉢の草花を買う時にも、ただ見た目の豪華さよりも「どんな生きものが呼べるのだろう？」と考えながら一重咲きの花や蜜の多そうな花を選んでみる。野鳥が好きそうな実をつける低木を置いてみる。あるいは少し頑張って、許可を取って公園の花壇の一角にチョウや鳥を呼べる空間を作ってみる。家の前の街路樹の根元にミカンやリンゴの種を埋めてみる。たったそれだけのことでも、毎日の散歩で身近な生きものたちの仕草に癒されるもっと素敵な我が街が育ってくるかもしれません。
生きものの暮らしを繋げる小さな輪を人と人との輪でさらに広げていく、そんなささやかな1歩をちょっと勇気を出して踏み出してみませんか？

泉　健司 ●植物生態コンサルタント

東京農業大学農学科副手を勤めた後、環境アセスメントをはじめとした各種植生調査などの仕事に従事。1996年ビオトープ・ガーデンを提唱。著書『小さなビオトープガーデン』、『親子で学ぶ身近な自然かんさつ』、共著「地球とつながる暮らしのデザイン」など。

ホームページ　http://www.biotopegarden.jp/

泉先生へのQ&A

Q1　**シラサギカヤツリ、ミズトラノオ、タヌキモなど繁茂して、水鉢が小さくなりました。どうすればいいのでしょうか？？**（ペパーミントさん）

A 水草が増えすぎてお困りとのこと、羨ましく感じる方もいらっしゃると思います。増えすぎた分を株分けしてもう1つスイレン鉢を設置するか、ご近所の方にもビオトープ造りを勧めてみてはいかがでしょうか？あるいは、スペースが許すようでしたらホームセンターで売っているプラスチック製のトロ箱などで、思いっきりゆったりした水辺環境を作ってみるのも楽しいかもしれません。

Q2　**我家のスイレンは全く咲かないのですが、どのような管理をしたら咲くのか、教えてください。**（敏造さん）

A 春先から日当たりの良いところで栽培してみてください。夏前までに十分葉を広げていれば水温も上がりすぎず、メダカも飛び出しにくくなるはずです。純粋に花を楽しみたい場合は1日中直射日光の当たる場所が理想的ですが、生きものたちのためのスイレン鉢で楽しむのなら午前中少なくとも3時間程度、直射日光の当たるところが向いていると思います。

今後もモニター報告を募集します!!

今回で水鉢のモニター通信は最終号となりますが、今後もご自宅の、「ちょこっと空間に来た生きもの」や「ちょこっと空間の工夫」などの報告は随時募集し、区ホームページ等に掲載する予定です。ご協力いただける方は、これまで同様に報告いただければ幸いです。

SETAGAYA みどり政策課より

3年間の講習会では「トンボや鳥などを呼ぶ水鉢」の作り方を紹介し、参加者の皆さんにはご自宅でのビオトープづくりの様子や、そこへ来た生きものを報告していただきました。水鉢のほかにも「チョウを呼ぶ寄せ植えや庭造り」にも挑戦したとの報告があり、皆さん、ビオトープづくりを楽しんでいるようで嬉しく思います。生きものは3年間で60種以上の報告があり、生きものの棲みかが「ちょこっと空間」から広がる様子が見てとれました。また、「管理を通して家族や知人との会話が増えた。」との声もあり、みどりや生きものが人とのつながりを生むことも実感できました。是非今後も、生きものを呼ぶ「ちょこっと空間」づくりをお楽しみください。
モニター制度にご協力いただきました皆さま、本当にありがとうございました。

編集後記

3年間ニュースレターを編集させていただいて、皆さんの水鉢が毎回バージョンアップしていくのをとても興味深く拝見していました。水鉢を通じて、生きものだけでなく会話が広がり、ご家族や隣人の方々との親交も深まったことはとても素敵だと思います。この小さな空間がどんなつながりを生んでいくのか？ぜひ、これからも楽しんでください。小さな空間が大きくつながることを期待しています。

生きものを呼ぶちょこっと空間 NEWS LETTER
生きものモニター通信 vol.6
発行：世田谷区みどり33推進担当部みどり政策課　〒154-8504 世田谷区世田谷4-21-27　TEL03-5432-2282
編集：一般財団法人世田谷トラストまちづくり　〒156-0043 世田谷区松原6-3-5　TEL03-6379-1620
17003087

講習会の様子、今後のモニター報告はみどり政策課のHPで紹介します。
世田谷区 ちょこっと空間づくり